

梅鶯仏教壮年会報

第77号
2010年
1月17日

1月例会

期日：31日（日）

夜7時～8時半

プログラム

お勤め

法話

「正信偈を味わう⑫」

話し合い

仏教讃歌斉唱

放談会（気楽に雑談）

新年

東井義雄先生

よいことばかり やつてくるように
つらいこと 苦しいことは
やつてこないように

そんなことを願っても
そんなは無理というもの

どんなことがやってくるかも
おかげさまで

それによって

人生を耕させてもらう道
人生を深め

豊饒にさせていただく道

それが
お念仏の道

新年のご挨拶

会長 北村新一郎

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も梅鶯仏教壮年会へのご参加ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

我が家では、例年のごとく家族揃っての元旦会を勤め、平成22年度のスタートとなりました。

仏前に座ると気が引き締まるというか、安らぐ感じであります。

昨年11月にご法事を勤めさせて頂きました。

その折、先祖の方々の過去帳整理もと考え、法名を年度別に作業を進め、一通りの事務的な作業が

終わってから気がつきました。その折々の先祖父の生活や各

時代背景が想像でき、皆様が必死に生きてこられたことが強く想わ

れたのです。

過去から今、今から未来へと、生命の連鎖が感じられました。

現在の私自身が、その途中の一時期の存在でしかないのです。

自分が今を『生かされている』と、思わずにはおられませんでし

た。

合理化や機械化を推し進めすぎ

て、世の中が矛盾だらけになった昨今の生活の中で、大切にしなければならぬのは人の心である。「心の時代」が叫ばれるようになってきました。

感謝と報恩の気持ちを持ち続けることだと思われまふ。

一つの方法として、お内仏やお寺へのお参りを増やすことだと考え、実行していきたいと思っております。

合掌

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

大晦日の「除夜会」は、生憎の風雪で竹灯籠に点灯できず、幻想的な空間を創出することができませんでした。ただし、田中薫さん提供のマシンが大活躍し、上級のたこ焼きにみんなで大満足し、大いに盛り上がりました。



前号からのつづき

○まことあることなき

最近「サステイナブル・
ディベロップメント」とい
う難しい言葉がよく使われ
ます。

これはもともと国連が提唱した言葉で、日本語では「持続可能な発展」と訳されます。

つまりこれまで目先の課題を解決するために、さまざまな開発行為が成されてきました。が、気がつくとその開発行為によって新たな問題が生じてきていることが多くあります。

この反省に立って、将来

に問題を残さない
ようになかちでの
いわゆる持続が可
能な私たちでの発
展を考えましょう



ということです。て、さまざまな開発によって、さまざまな課題が生じてきている」のは事実であり、今そのことを問題にしているのも私達ですが、けれども、その開発によって快適で便利な世の中を楽しむことができます。

快速な生活を捨て、さまざまな課題に立ち向かうには、大変な勇気を必要としませんが、その勇気を簡単に持つてないのもまた私達の現実です。まさに矛盾した私の姿です。

親鸞聖人は、歎異抄の中でこの世を「火宅無常の世」界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたわごと、まことあることなきに」と仰られています。

矛盾した生き方しかできないこの私の姿は、まさに「まことあることなき」姿

です。

○仏教が必要な時

博士は、人間の欲望を制御することの



できる新しい価値観が必要
 で、その役割を果たせるの
 は文化や宗教でしかない」
 と提言されました。

そして、若原学長はとり
 わけ全てのいのちを認める
 ことのできる仏教の果たす
 べき役割は、非常に大きい
 のではないかと発言されま
 した。

このことは、先般日本を訪問していたダライ・ラマが、「世界的に混迷する現代社会において、リーダー的役割を果たす国として日本が最もふさわしいのではないか」とし、その理由を「日本は経済的に豊かで、自由がある。そしてなによりも仏教国である」と述べていたことからもうなずけます。

親鸞聖人は、この世を、
「まことあることなき」と
述べた後で「ただ念仏のみ
ぞまことにおわします」と
述べておられます。

「まことあることなき」

私であるからこそ

その存在を全て引き受けて下さる阿彌陀さまの存在もまた真実であるこ



とに気づくのです。
 そしてそう気づかさせて
 頂くときに、矛盾した私の
 生き方もまた見えてくるの
 ではないでしょうか。
 ○「**ありがたし**」と「**おは
 ずかし**」の中で

本フオーラム開催責任者の大柳龍谷大学理工学部長は「人間は生きている間は欲望をなくすることはできない。では、どうすればいいのだろうか。きれいなことを言っても常に欲望があるという人間の本质をしつかり受け止め、恥ずかしい、すまない、という気持ちを持つことだ。そして自分を支えるすべてのものに感謝できれば、欲望にブレーキをかけられる」(11月13日読ま新聞)と述べておられます。

「まことあることなき」
私でありながら、「かならず救う」との阿弥陀さまの存在に気付かさせて頂いくならば、「ありがたし」とともに、「おはずかし」の

こころが生じ、そ

の心が今最も求められていう

ことでしょう。

